

クラブ紹介



六十の手習い。とか申しますが、習字クラブが発足して四年になります。

最初の頃は、象形文字ならぬ筆運び。しかも墨汁たっぷり顔も手も真黒でした。でも先生や職員の援助の中、今では立派な文字が書ける様になりました。リハビリ訓練の成果もあり、しっかりと筆を持つことも出来、精神を集中する時間でもあります。故郷へお便りなども自筆で書いてみませんか。月二回の習字時間を楽しみにしています。

講師 片山 益夫  
部長 高橋 道夫  
副部長 松浦ユキ子  
クラブ員 十七名  
毎月第二・四水曜日



「習字クラブ講師として」

片山 益夫 先生

最初に講師の依頼のお話しをお聞きしました時、私のような者が重要な講師など務まるか不安でございました。

ある面では、お引き受けして務まるかどうか解らないが、自分の力を試してみようと冒険心が胸を躍らせこのお話しを快よくお引き受けしました。



三恵ホームのある所は、私の生まれた故郷であり、心の奥に故郷を愛し、甘える心があったのでしよう。故郷に甘える気持ちが不安を取り除き、又愛する気持ちが情熱を駆り立てたのかもしれない。そして三恵ホームの仕事は私にとっての洗礼者となり、向上心を育てて呉れています。人は誰れでも好むと好まざるに拘わらず歳を老いて来ます。

そして歳を老るにつれて、少なからず障害を持つのではないだろうか、不安を持ってあります。

皆さんと一緒に活動をしてみて、障害を乗り越え職員の方々が苦勞を乗り越え家族ぐるみで親身に成って活動して居られる

様子を実感しております。

「福祉」と言う、言葉の持つ意味の重さを十二分に受け止め、福祉の一端ではありますが知る事が出来ました。

最後になりましたが、丁度私も昨年皆様のお陰を持ちまして、町の行政の責任者の一員にさせて頂き、一段とその責任の重さを感じております。これからも宜しく御指導御便賜賜わります様お願い致します。

おたより

また遊びにきます



今治明德短期大学

大森 博志

慣れた頃に実習も終り、僕も四月から社会人と成ります。何かと御迷惑もおかけしました。熱心な御指導、どうも有難うございました。

実際に介護することの大切さ、厳しさを学ぶことが出来、今後の僕に大きな希望と生きがいを感じる事が出来ました。実習経験を大切にしてこれから頑張りたいと思います。